

民泊をめぐる現状と 法的課題について

規制改革会議
第20回地域活性化
ワーキング・
グループ
2015年10月29日

東洋大学
国際地域学部
国際観光学科
矢ヶ崎紀子

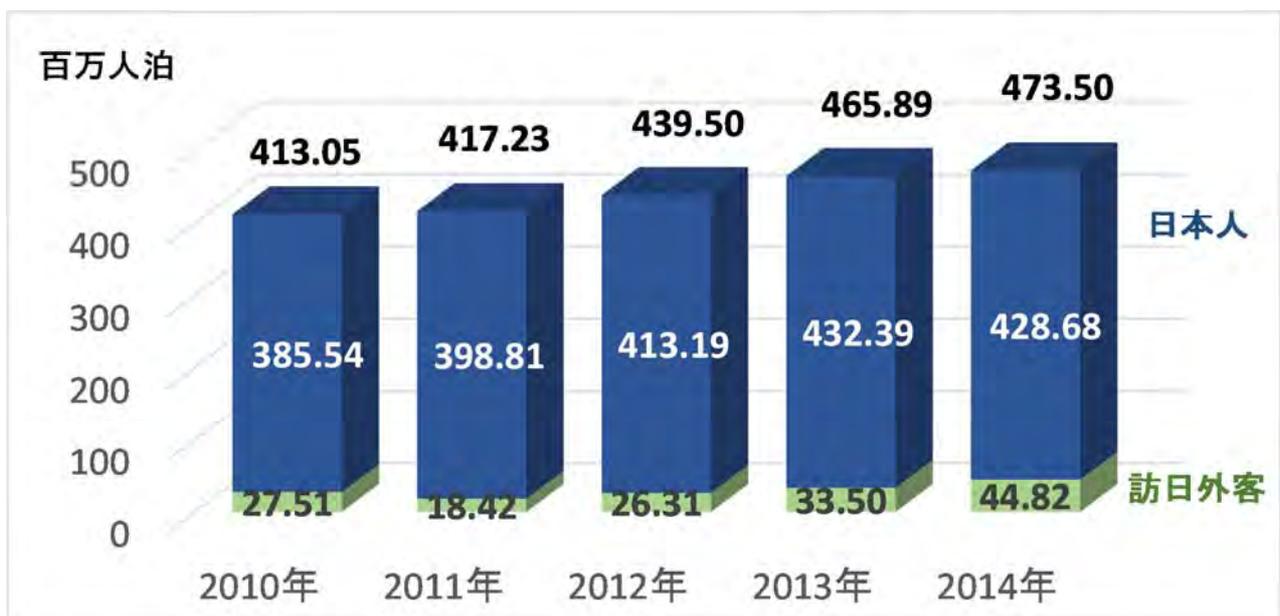
お話させて
頂く項目

1. 宿泊産業の現況と課題
2. 民泊の可能性と課題
3. 民泊に対する海外での対応
4. 民泊への対応の考え方（私案）

1.

宿泊産業の 現況と課題

宿泊産業の現況 ①市場規模：年間4.7億人泊

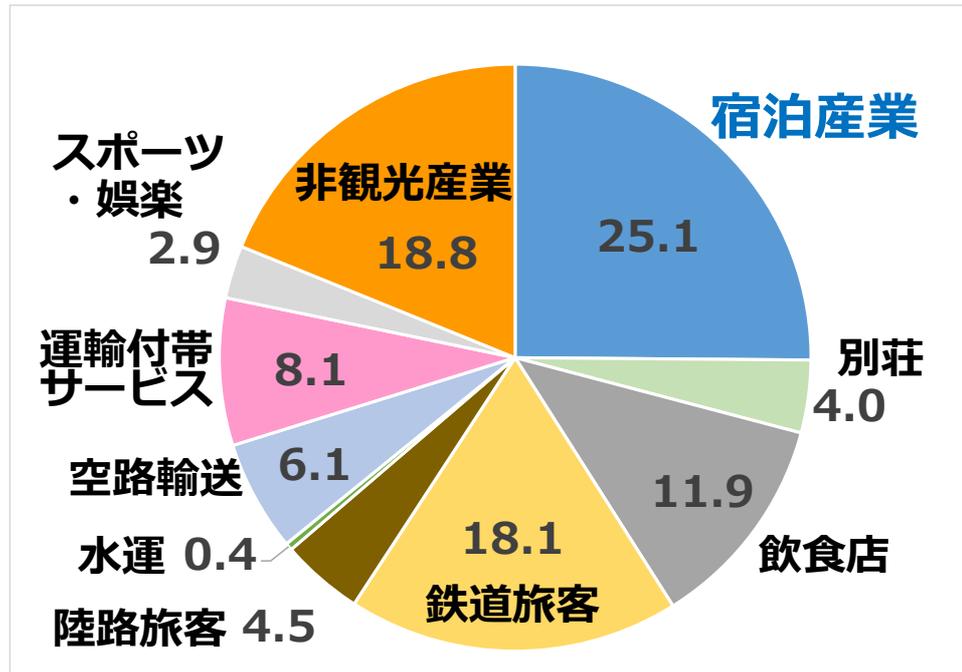


宿泊産業の現況

② 観光産業への貢献

2013年観光GDP
(TSAベース) :
9.0兆円

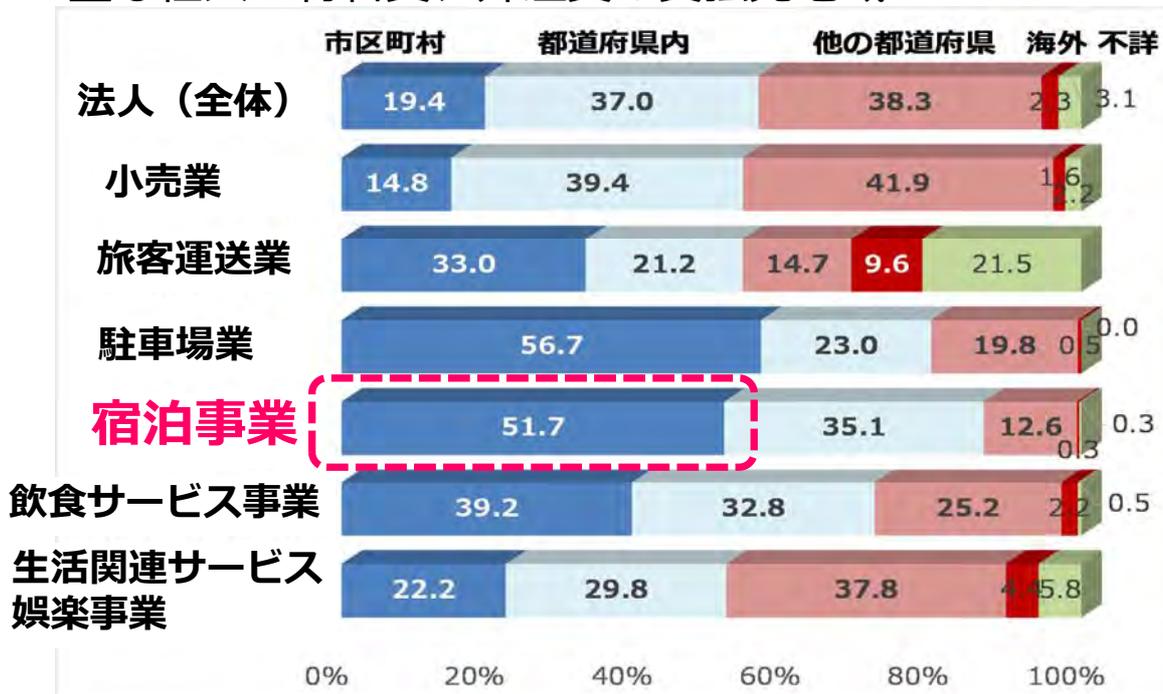
名目GDP480.1兆円
対比 : 1.9%



出典 : 観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」(2015年3月) より作成。 5

宿泊産業は観光消費を地域経済につなぐハブ

主な仕入・材料費、外注費の支払先地域



出典 : 観光庁「平成24年観光地域経済調査」より作成。

宿泊産業が抱える課題

- 国内観光宿泊旅行の実施率の低下
2014年56.9% じゃらんリサーチセンター「宿泊旅行調査2014」
- 訪日外客の特定地域への集中、
一部地域で需給逼迫（P.38, P.39 参照）
- インターネットを活用した新しいビジネスモデル
の参入
- 安全安心の強化
公衆衛生に加えて、耐震からテロまで
- 担い手不足（経営者、従業員とも）
- 労働生産性，利益率の低さ

7

2.

民泊の 可能性と課題

8

民泊の可能性

1. 多様な資源活用 → 多様な宿泊形態
旅行者にとって、選択肢が増え、宿泊することの魅力が向上。人的交流促進。
2. 需要集中への対応
→ 急増する訪日外客、イベント時対応。
3. 新しいビジネスモデル → 新規需要の開拓
若者層、長期滞在、低料金の宿泊、日常生活体験＋交流＋宿泊、など。

9

既存の民泊「農林漁業体験民宿」

	ホテル営業	旅館営業	簡易宿所営業	農林漁業体験民宿
名簿	宿泊者名簿（氏名、住所、職業等）を備える。			
客室数	10室以上	5室以上	－	－
客室床面積	洋式の構造設備 9㎡以上	和式の構造設備 7㎡以上	延床面積 33㎡以上	－
玄関帳場	宿泊しようとする者との面接に適する 玄関帳場・類する設備。		－ (*)	－
換気・採光等	適当な換気、採光、照明、防湿、排水の設備。			
入浴設備	宿泊者の需要を満たす適当な数の洋式浴室又はシャワー室。	入浴に支障をきたさない（当該施設に近接して公衆浴場がある等）と認められる場合を除き、 宿泊者の需要を満たす適当な規模の入浴設備。		
その他	都道府県（保健所を設置する市又は特別区）が条例で定める構造設備の基準に適合。			

* 条例で設置が求められる場合がある。

10